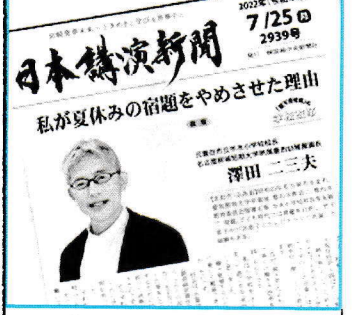


新 聞 社
 〒444-0103 愛知県額田郡幸田町
 大字入草字新屋敷(新中津)63-1
 宮崎への日婚旅行は面白かったの号
 第350号 創刊1990年7月28日
 Email: k.kkeji949@yahoo.co.jp

新 聞 社

私にはいつも「夢かな
 目標」が、またたきと思
 います。それは出合
 た出来事に一人人生
 に訪れた試練やチ
 ンス、トラブルや困難
 に、いつもひとつひとつ
 「夢」に心をこめて向
 え合っていたい。と
 気持ちを写す……
 宮崎中央新聞社



100倍に増える
 新新聞の100倍

分には、その味を忘れる。日本講演新聞の試読版は、一か月経つても懐い後味が残る。
 かり博多の歴史に三河のオジサンは魅了された。
 この日会場に戻ったのは、河野宮崎県知事始め、日本講演
 新聞の愛読者ばかりなので、共有できる縁は空気が漂っていた。ラッキーだ
 ったりは同じグループにあつた。何かあつてもよかよかのめりあつた(写真)が
 居たこと。この人の前向きで、たつた人柄が気に入りました。
 ステップ作りが、気持ちの良い祝賀会だった。

追力と自信満々の言葉
 が出て来るのだろうか。
 90分にも及ぶ熱弁です。
 分には、その味を忘れる。日本講演新聞の試読版は、一か月経つても懐い後味が残る。
 かり博多の歴史に三河のオジサンは魅了された。
 この日会場に戻ったのは、河野宮崎県知事始め、日本講演
 新聞の愛読者ばかりなので、共有できる縁は空気が漂っていた。ラッキーだ
 ったりは同じグループにあつた。何かあつてもよかよかのめりあつた(写真)が
 居たこと。この人の前向きで、たつた人柄が気に入りました。
 ステップ作りが、気持ちの良い祝賀会だった。

は殆んど「悩み」とは無関係の当編
 集長ごもその琴線に触れる語が
 次々と、曰く「多くの困難を
 時代を変え、ほまれ変わらでる。米
 沢藩を建て直した上杉鷹山然り。
 幕末・明治維新然り。大変な事
 が時代や社会と変える。人々の困
 った顔は、希望の証しです。日本の
 歴史と学んで、西郷隆盛なら私のおと分かつてくれる
 と信じた。福沢諭吉は過去より自分ではやく未来の自
 分に对するプライド(矜持)
 を持っていた。等々、あの美
 しい顔とあのどこからこの
 追力と自信満々の言葉
 が出て来るのだろうか。
 90分にも及ぶ熱弁です。



宮崎中央新聞社スタッフと7番テーブル各

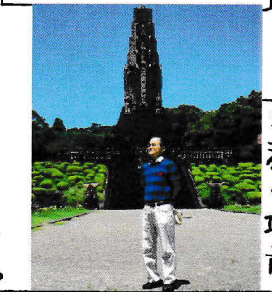
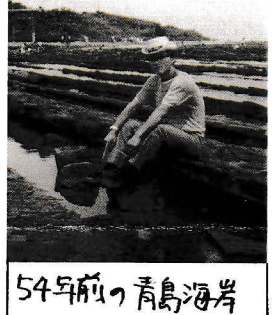
新婚気分、宮崎観光
 宮崎訪問。宮崎観光でけんかせん！と思つた時、駅観光案内
 所の姫達がおのほりさんを助けくれた。先づは宮崎神宮参拜。
 翌日は初めて観光タクシーを利甲して、県物産館全由青島方
 面ツアー。学生時代行った九州一周旅行の遠い思い出が蘇った。
 タクシー運転手が言った。母親が、ここが鬼ヶ洗濯板と呼んでいる所は
 の」と言ったら、ママ洗濯機はどこにあるの？と聞いたそう。顔
 は良いけれど脚が悪い。編纂長は、ここ、トグツグと島に渡したの
 は助かった。宮崎県と言えは焼酎。100以上ある焼酎の酒蔵を見学し
 た。たが、フフチン接種証明書が必要と。県内在住者に限りま。
 と言われ断念。結果訪れたのは平和台公園。平和の塔、はにり園は又
 天下でも静かにゆくり遊ばせ。レストラン「S」は、この場所には、夕
 りの素朴とメニュー。木林の中でのランチタイムと満喫。宮崎よかよか！



中央新聞社30周年ありがとう講演会・祝賀会
 子から親への感謝の贈呈式
 (右)香取文(会長) 編集長(母)社長(右)

おかげで宮崎の
 状エピソード
 30周年記念講演会
 と祝賀会とあらは行くし
 かはい。久々の夫婦での空
 の旅と満喫した。
 白駒如登美さん。人生に懐
 んだら、この人に訊いて講演

54年前の青島海岸
 島は1970年代運ばれた
 平和の塔前



政吉を聴く

2022年7月2日(土)
14:30開演(14:00開場)



令和のうねりを覚す会

静かにしていた竹中義夫さんが事を起こした。100年
前に国内で初めて量産化に成功した鈴木政吉さん
が手作りのバイオリンを使った演奏会が開かれた。
地元碧南のバイオリンメイトの熊谷祥

子さんの演奏によるビバルディやヨパンの曲は
音楽オニキの我が身にも十分響いた。
紅丸人の竹中さんは収益金を子供達の健全
育成のためにと地元の団体に贈った。74歳にし
て新たなうねりを起こそうと言う気概に拍手!!

私もペン立てほしい!

先月号に「最後のペン立て作り」の話を
載せたら、四日市嘉喜家の女将「直子」さ
んから「私の記事もペン立てにしたい」とリ
クエストが来た。山中さんに伝えたらすぐ作ってくれた。完成品を手に
取った直子さん「きれい江上げして、表面にはシワ一つないわ」「直子
さんのお肌みたいな」と編集長「みーらやだ。どうして康司さん
そんなこと知ってるの？」と少し恥じらった声の直子さん。嬉しそう。



ペン立てに花を添えた



竹中さんから収益金が贈呈された

飛汗権感

「茅の輪くぐり」が復活。輪の作り方、くぐり方
を伝えているから、再開して良かった」と宮司さん
がこの地の「厄払い」無病息災が叶いますように。



茅の輪の神祇大草



扇子は夏目阿茶

めった。T.Vの「歌ピア」を時々観るが「もしもピア
」が弾けたなら」の曲田敏行の気分が鍵盤に
向かってきた。▼旅えびの楽しきは観光とグルメ。
名物チキン南蛮は(鶏肉は吾手)遠慮して宮崎
牛を頂いた。普段ドライブに疎遠な夫婦にと、こ
目の前で焼ける肉の油と音が食欲をそそる。も
ろろんその美味しさを言ったら...

▼近頃土産物店でも見かけない絵ハガキが
物産館とみえまりあから入手できた。
宮崎めぐりがどう。▼ハガキ覚に嬉しかった
のは、「当地郵便ポスト」との出会い。日向
夏ポスト。脇に依り智さんの「マージ」も。
もう一つは青島の入口に設けられた黄色
のポスト。豊玉姫と山幸彦の恋文(神話)
が基らしい。若者よも、と恋文を出そう。

▼垣輪と見ていると素朴で純な境地に誘
めれるような気持ちになる。▼青島神社前の狛犬は雄雌の違、あると
運転手に放れた。好奇心豊
かな編集長はその留所(服
ぐら)を自分の目で確かめた。



垣の山台の和

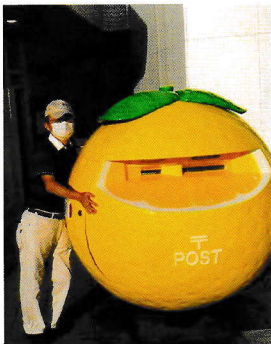
運転手に放れた。好奇心豊
かな編集長はその留所(服
ぐら)を自分の目で確かめた。



狛犬の普通の見



青島の黄色いポスト。後には青島



宮崎駅前の日向夏ハガキ



宮崎に馴染んだ



海外の「空港ピアノ」

最初500部しか発行部数なかった宮崎中央新聞くるみさんは一軒一軒訪問営業した。今や全国紙に、田中真澄流の「コミュニケーション」のほろろ事例